

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 令和5年1月発行

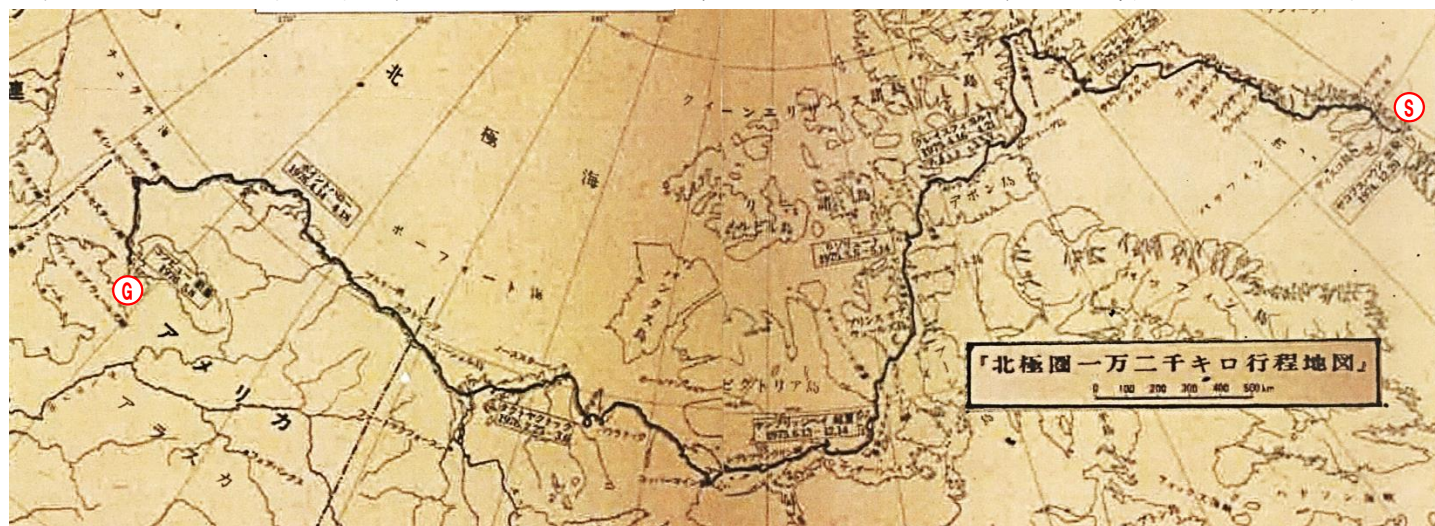


令和5年。新春のお慶びを申し上げます。本年も子どもたちの体験・試行錯誤の基地『かぐめよし少年自然の家』をよろしくお願いいたします。

さて、年末に植村直己著「**北極圏一万二千キロ**」を読み返し、改めてその強靱な精神に感銘するばかりでした。1年半をかけて、主に海氷上をデンマーク（グリーンランド）からカナダ、アラスカ（アメリカ）

を犬ぞりで踏破したものです。この長い犬ぞり旅の最中、若い先住民はスノーモービルを使って猟や移動を行うことが主流でしたが、年配の先住民は犬ぞりを使っており、植村氏は『なぜ未だに犬ぞりを使っているのか？』を聞くと、『故障しないから』という言葉が返ってきたそうです。植村氏の命は、犬たちと共にあったわけですが、-50℃の極寒下のぞり引きの中、幾度となく犬に逃げられたり、狩猟での食料の補給の困難等々を乗り越えこの壮大な目的を達成したものです。

わずか半世紀前の偉業ですが、現代に生きる我々にとっても自然や生き物への警鐘としたいものです。昨年のめぐニュースでもお知らせしていましたが、「竹チッパー」という機械を導入し、荒れ果てた竹林、いわゆる「放置竹林」の健全化に向けた学習、体験事業を今月28日（土）に実施いたします。もはや、人力のみでは対処できず、竹チッパーはスノーモービルと同じくエンジンを備えた機械ですが、機械も人間もそして自然を崩さないよう、有意義な取り組みを目指します。ご興味ある方がいらっしゃいましたら、ご連絡をお願いいたします。





主催事業報告



第2回観天望気学習キャンプ



台風はどうして「反時計回りに回転する」のか知っていますか？今回は、ペットボトルで渦を発生させる実験をして明らかにしました。



また、雲をつくる水分の始まり、紫川源流も見に行きました。さらに、夜には赤外線カメラで所の周りの動物撮影。アナグマ、タヌキ、イノシシ等、いろんな動物がたくさん活動しているのを知って、みんな大興奮！「かぐめの夜は動物天国だ。」

秋の福智山登山

秋の福智山登山は3家族が参加。北九州一高い山「福智山」の登山に挑戦しました。この事業のサブタイトルは「リンドウを見よう」。山頂近くでは綺麗な紫色に咲いたリンドウをいくつか見る事ができました❀



他にもアケボノソウやセンブリ等のリンドウの仲間にも出会え、秋晴れの爽やかな福智山を満喫出来た1日でした。

第2回初めての陶芸教室

2回目の陶芸教室では、1回目に作って素焼きが終わった作品に釉薬



付け。11種類の釉薬の中から思い思いの色を選び、焼き上がりをイメージしながら土鈴にカップ、大皿に釉薬をかけていきました。午後からは、出来上がりをイメージして、カップを置く木のコースター作り。親子で協力しながら、一生懸命に鋸を引いていました。

家族で協力して作ったお皿で食べる料理、自分で作ったカップで飲むドリンクの味はどうだったでしょうか？

第4回かぐめよし自然少年団

今回の活動は、ウォークラリー、キャンプファイヤー、青竹ふみ作りでした。どの活動も団員たちは全力で楽しんでいました。夕食はみんなで外の囲炉裏で鍋を囲み、むかごご飯を食べました。紅葉真っ盛りのかぐめよしの秋を感じてもらいながら、今年最後の少年



団の活動を締めくくることが出来ました。

市民センター職員等研修会

市内の9つの市民センターの職員18名の方々にご参加いただきました。木のキーホルダー作り、秋の食材を使った野外調理、所内散策と、内容盛りだくさん！「区を超えて、他のセンターの方と交流が出来た」との言葉をいただきました。来年度も実りのある研修会になるように計画したいと思います！



クリスマスリース作り

2家族7名が参加したクリスマスリース作り。かぐめよしのリースは、ほとんど自然素材。所員が野山で集めてきた木の実で飾り付けて作ります。親子で協力して葛の蔓(つる)を巻き、思い思いに飾り付けてい



きました。薪ストーブで、ぽんぼこ所長と隊長が焼きリンゴを作ってくれてみんな大喜び！

がんばって作った世界に一つだけのオリジナルリースが、クリスマスに彩りを添えてくれたでしょうね！

ぺったんぺったんお餅つき

年の瀬が迫る中、6家族が集い、しめ飾り作りとお餅つきをしました。しめ飾り作りでは、藁で縄を緋(な)う、という慣れない作業に苦労されていましたが、頑張って、思いがこもったしめ飾りを作り上げました。また、お餅つきでは、みんなで「ぺったんぺったん」とお餅をつき、酢餅や黄粉餅などを作りました。つきたてのお餅は柔らかくみんな沢山食べていました。



2023年もみんなさんにとって良い年になると良いですね。

※12月18日(日)に予定していましたが、第2回ボランティア研修会は、大雪の為中止致しました。

主催事業のお知らせ 2月~3月

	事業名	時期	対象者・人数
2月	家族みんなでだんらんラン！	2月11日(土)～ 2月12日(日)	6家族
	第3回ボランティア研修会	2月26日(日)	施設ボランティア
3月	第6回かぐめよし自然少年団	3月11日(土)～ 3月12日(日)	かぐめよし自然少年団 に所属する団員

※今後の新型コロナウイルス感染状況によっては、事業を縮小・中止することがございます。

主催事業の募集は全て市政だよりに掲載します。

応募は市政だよりをご覧ください、お申込み下さい。

頂吉図鑑

～第30回～

南天（ナンテン）



今回ご紹介するのは、南天（ナンテン）です。どこにでも目にする馴染み深い植物ではないでしょうか。

かぐめよしの敷地の中はもちろん、サイクリングロードでもあちらこちらで目にします。そもそも山に自生してたのか？「栽培していたものが鳥などによって野生化したと考えられる」と記述している本が多いようです。もともと中国原産で、平安時代に日本に入ってきた植物とされています。

名前の由来は、中国名の「南天竹」、「南天燭」から「南天」となったとされています。読みを「ナンテン」としたことから難（ナン）を転（テン）ずるに通じるとして、縁起の良い植物として家に植えられるようになったと言われています。またトイレの近くに植えられることが多いのも、転びそうになった際によりかかれるようにとのことだそうです。他にも「南天の箸」、「南天の床柱」が有名です。（床柱に使うような大きな南天は、見たことがありません。金閣寺の夕佳亭の床柱は、本当に同じ種類のナンテンなののでしょうか？）

料理のあしらいにナンテンの葉を使うのに理由があるのをご存知でしょうか。私も縁起物だからと思っていたのですが、実はこの葉に含まれる成分の分解物に、猛毒のシアン化水素があり、ごく微量に漂っているため虫がよってこない、また防腐作用があるとのこと。先人はどうやって気づいたのでしょうか。すごい知恵ですね。

この冬、どこのナンテンも、赤い実をたわわに実らせていました。2年前の冬は、どこのナンテンの実も不作でした。雌雄同株で両性花のナンテンで、これだけ実の付き具合に差がでるのは何故でしょうか。花が咲く時期と、受粉のための虫の発生時期がずれたからでしょうか。もともと自家受粉しにくい種類ですが、異常気象のせいではないかと考えてしまいます。



北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267

北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093) 451-3111 FAX：(093) 451-3133